

2024年3月期 第1四半期

決算補足説明資料

2023年8月1日

株式会社 ドリームインキュベータ（証券コード4310）

DI

第1四半期業績

- **ビジネスプロデュース：**
 - 売上高9.6億円（前年同期比+11%）
 - 営業利益▲1.5億円
 - 売上の伸び以上に人件費の伸びが拡大しているが、今後の売上増で通期の純利益目標6億円は維持
- **ベンチャー投資：**
 - 営業利益▲0.2億円
 - 1Qは売却1件
 - 2Q以降も引き続き適切な時期を見極め売却を推進

サービスライン拡張状況

- **新プラクティスTechnology & Amplify（T&A）は、徐々に立ち上がり始め、今後の拡大に手応え**

自己株式取得

- **7月末時点の取得状況**
 - 株数：46.5万株（上限150万株に対し進捗率31%）
 - 金額：12.5億円（上限30億円に対し進捗率42%）
- **取得後は、期末決算発表までに、一部の役職員向け株式報酬充当分以外は消却する方針**



1. 2024年3月期 第1四半期決算

2. 参考資料

1) 会社概要

2) 現中期経営計画要旨

2024年3月期 第1四半期 連結P/L（前期売却済事業除く）

- ビジネスプロデュース：
 - － 売上は継続拡大
 - － 利益は採用積極化による人件費増と売上発生タイムラグの関係により営業赤字
- ベンチャー投資：売却1件

（単位：億円）

	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	前年 同期比
売上高	10.6	11.7	10.3%
ビジネスプロデュース	8.6	9.6	11.6%
ベンチャー投資	2.0	2.1	4.6%
営業利益	2.1	▲1.8	-
ビジネスプロデュース*	1.5	▲1.5	-
ベンチャー投資*	0.5	▲0.2	-
経常利益	2.5	▲1.9	-
親会社株主帰属純利益	- **	▲1.8	-

* セグメント別の営業利益＝各セグメント利益－全社費用負担額

** 前期は売却済事業含む全体でのみ算出しているため数値無し © DI 2023 – ALL RIGHTS RESERVED.

2024年3月期 第1四半期 連結P/L（前期売却済事業含む）

参考

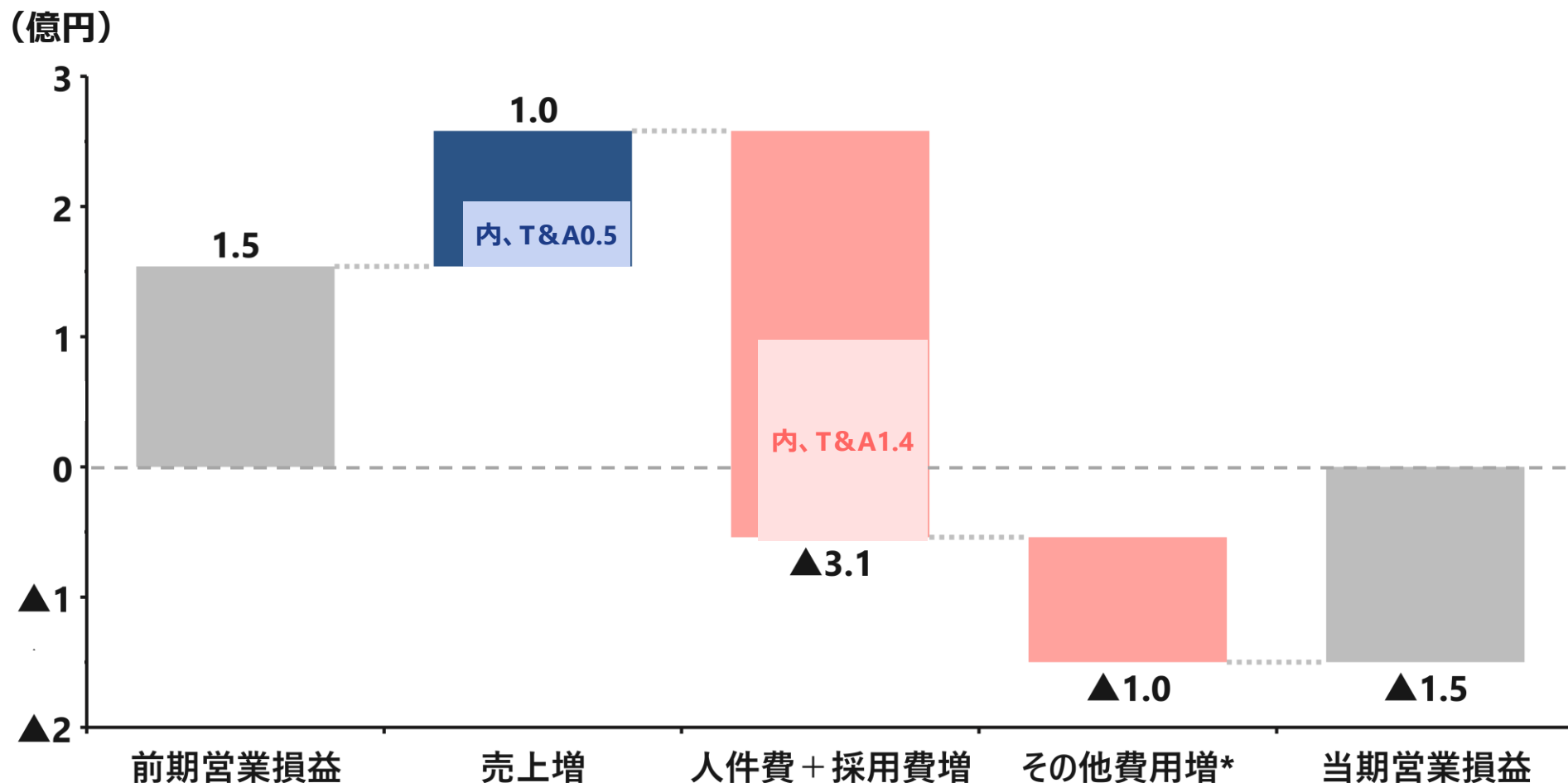
前期1Qはアイペットホールディングス社(iPet)連結による影響有
加えて、子会社2社売却による特別利益5.4億円を計上

(単位：億円)

	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	前年 同期比
売上高	89.8	11.7	▲86.9%
ビジネスプロデュース	8.6	9.6	11.6%
ベンチャー投資	2.0	2.1	4.6%
ペットライフスタイル (iPet)	79.1	-	-
営業利益	3.5	▲1.8	-
ビジネスプロデュース	1.5	▲1.5	-
ベンチャー投資	0.5	▲0.2	-
ペットライフスタイル (iPet)	1.3	-	-
経常利益	4.2	▲1.9	-
特別利益 (関係会社株式売却益)	5.4	-	-
親会社株主帰属純利益	7.2	▲1.8	-

ビジネスプロデュース：営業損益分析（前年同期比較）

積極採用の継続によるコスト増が、売上の伸びに対し一時的に先行

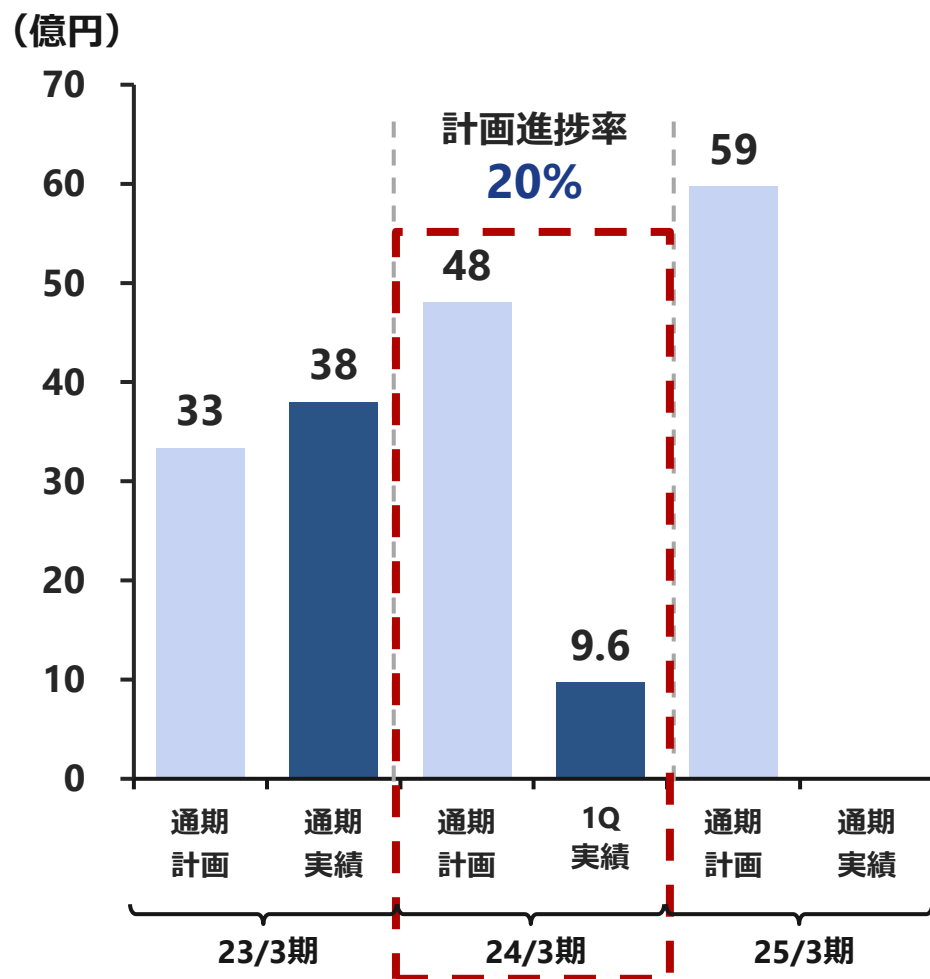


* 主に増床・設備投資・PJ外注費

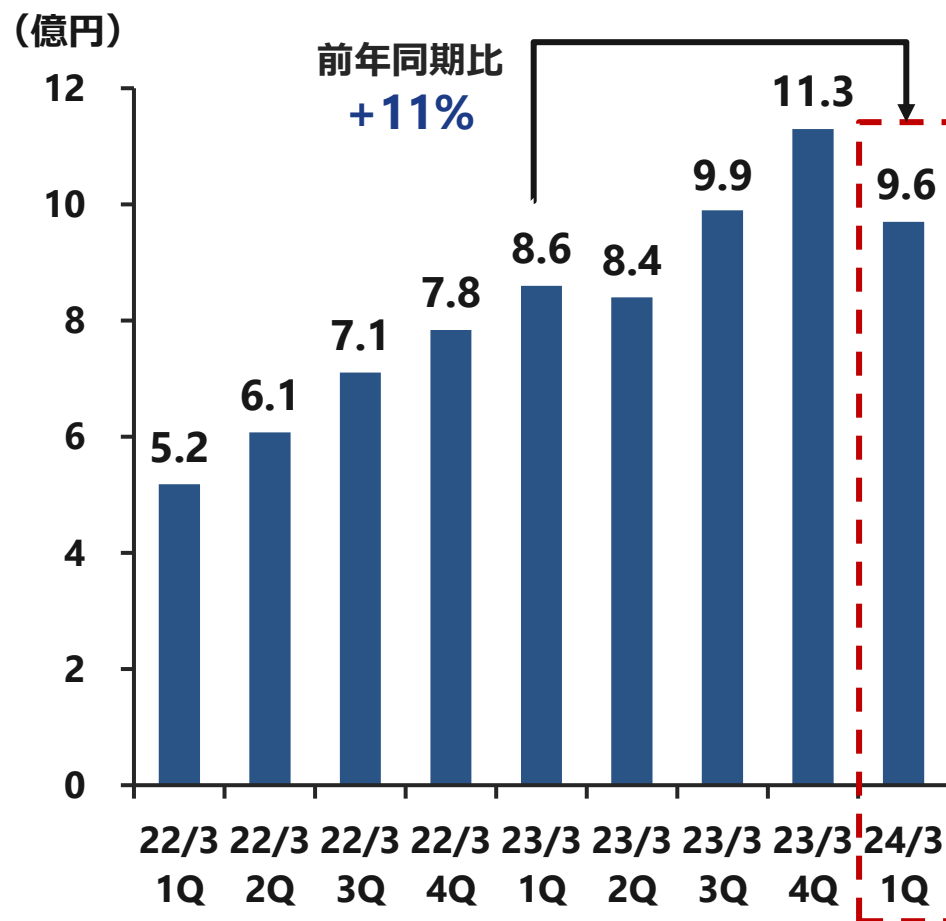
ビジネスプロデュース：売上状況

拡大基調は継続。計画進捗率 20%、前年同期比 11%増

売上高計画対比



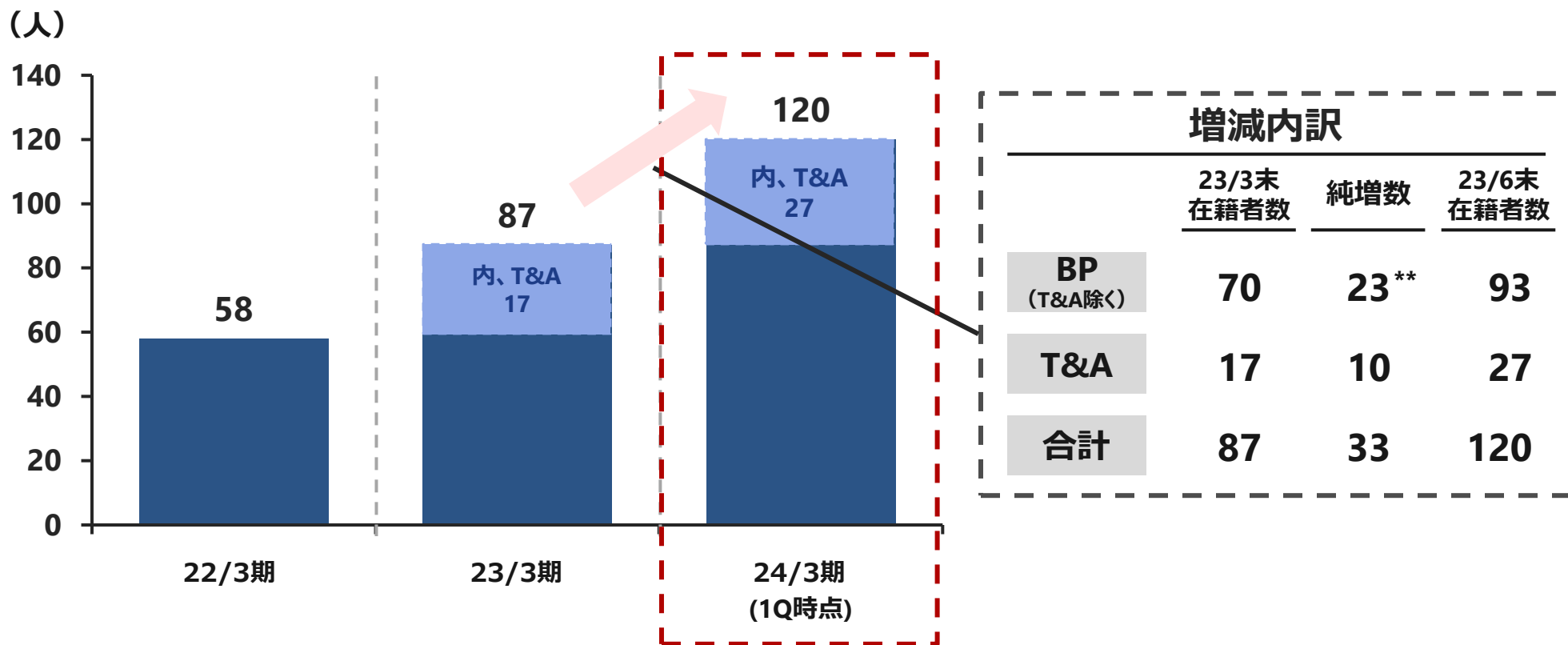
四半期売上高*推移



* 売却済事業を除く

ビジネスプロデュース：人員数状況

ビジネスプロデューサー*人員数推移



来期以降の成長力を高めるべく、優秀な人材を継続確保
● 今後の売上増で通期の純利益目標6億円は維持

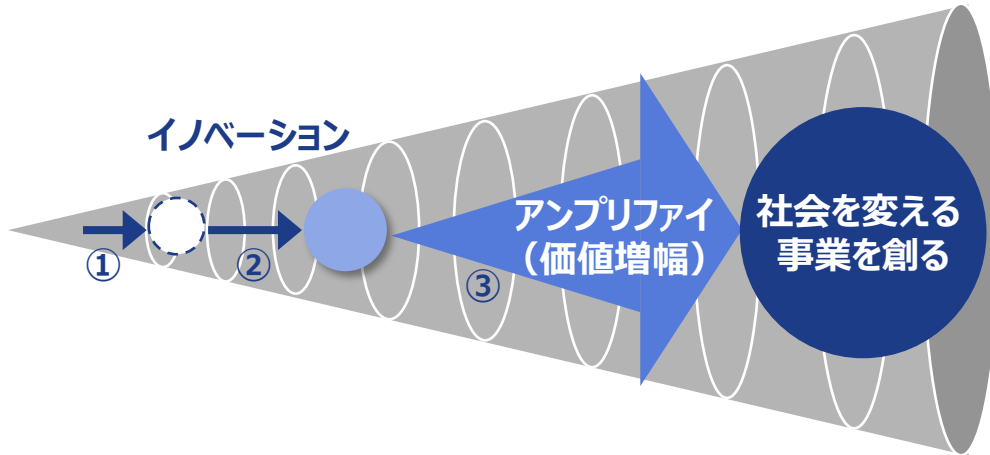
* インキュベーション専任者を除く
** インキュベーションからの異動2名含む

Technology & Amplify (T&A) の立ち上げ

T&Aの意義・狙い

ビジネスプロデュースにより創出される事業を、テクノロジーによって“増幅”

- 既存ビジネスプロデュース部隊との融合と連携



① 0から構想する

産業プロデュース
ビジネスプロデュース

② 構想から1にする

ビジネスプロデュース
インストレーション

③ 1を10にも100にもする

Technology
& Amplify

状況

	前期	当期 (1Q時点)
フォーカス	初期体制の構築	軌道に乗せ、業容を拡大する
採用	幹部採用し、初期体制を構築 ● 執行役員/MD*で6名	メンバー層の増員を推進中 ● 6月末時点で27名体制 - 3月末から+10名
受注	顧客への提案活動を本格始動	受注本格化 ● 1Q売上は0.5億円 ● やや初動に時間を要したものの、6月以降は受注見込も増加傾向 - ビジネスプロデュースとの連動案件も

需要は旺盛であり、今後の拡大に手応え

ベンチャー投資：ポートフォリオと時価の状況

- 売却1社
- 簿価/時価ともに大きな動き無し

(単位：億円)

		2023年3月末		→	2023年6月末	
		簿価 ¹⁾	時価 ²⁾		簿価 ¹⁾	時価 ²⁾
ポートフォリオ ³⁾ 主要ベンチャー	日本	1 (9社)	14	▲売却：1社 (投資/減損は無し)	1 (8社)	11
	インド	18 (21社)	65		20 (21社)	66
	その他	0.0 (1社)	3		0.0 (1社)	3
	合計	20 (31社)	82		21 (30社)	81
ファンドへのLP出資 ⁴⁾		24 (6社)	24		25 (6社)	25
ベンチャー投資		45 (37社)	107 ₍₁₇₎		47 (36社)	107 ₍₁₇₎

1) 自社ファンドの保有銘柄は、DI持分相当額のみ

2) 税引前。税金はカッコ内に内数として記載

3) 減損済かつその後のアップラウンドがない銘柄、及び評価対象外のストックオプション除く

4) 簿価には損益取込分を反映。時価は各ファンドで算定方法が異なるため算出せず

2023年6月 連結B/S

2023年3月末
(総資産：313億円)



2023年6月末
(総資産：219億円)



(主な増減内訳)

負債

- 法人税支払：▲61億円

純資産

- 配当：▲20億円
- 自己株式取得：▲7億円



自己株式取得の状況

今期還元方針：自己株式中心に40億円以上実施

自己株式取得決議内容(5/11)

- 取得株式総数 : 150万株（上限）
 - 発行済株式数（自己株式除く）に対する割合 15%
- 取得価格総額 : 30億円（上限）
- 取得期間 : 2023/5/12～2024/3/31

7月末時点での取得状況

- 取得株式数 : 46.5万株（上限に対し進捗率31%）
- 取得総額 : 12.5億円（上限に対し進捗率42%）

取得後の方針

- 期末決算発表までに、一部の役職員向け株式報酬充当分以外は消却



1. 2024年3月期 第1四半期決算

2. 参考資料

1) 会社概要

2) 現中期経営計画要旨

ドリームインキュベータ (DI) の概要

会社概要

商号	株式会社ドリームインキュベータ (Dream Incubator Inc.)
設立	2000年6月1日 (活動開始)
証券コード	4310 (東証プライム)
所在地	東京都千代田区霞が関3-2-6 東京倶楽部ビルディング4F
資本金*	50億円
従業員数*	143名
主要子会社	Dream Incubator (Vietnam) Joint Stock Company Next Rise ソーシャル・インパクト・ファンド投資事業有限責任組合 DIインドデジタル投資組合
役員体制	代表取締役社長 三宅 孝之 取締役副社長 細野 恭平 取締役 取締役会議長 原田 哲郎 社外取締役 藤田 勉 社外取締役 (監査等委員) 宇野 総一郎 社外取締役 (監査等委員) 小松 百合弥 社外取締役 (監査等委員) 宇田 左近
事業内容	ビジネスプロデュース (事業創造支援や成長戦略のコンサルティング、等)

経営理念

- 社是
- 1、人々の役に立つ (事業に存在理由がある)
 - 2、利益を創出する (事業が付加価値を生む)
 - 3、成長する (事業が社会的影響を持つ)
 - 4、分かち合う (事業が社会に調和する)

Mission : 社会を変える 事業を創る。

Vision : 挑戦者が一番会いたい人になる。

Value : 枠を超える。

MVV

- 領域の枠を超えて構想する。
- 常識の枠を超えて戦略を立てる。
- 組織の枠を超えて仲間を集める。
- 自分の枠を超えて挑戦する。

沿革

- 2000年 投資育成・コンサルティング事業を目的として活動開始
- 2002年 東証マザーズに上場
- 2005年 東証一部に上場
- 2007年 ベトナムホーチミン市に現地法人Dream Incubator Vietnam を設立
- 2011年 投資育成を目的として(株)アイペット (現アイペットホールディングス(株)) の株式取得、連結子会社化
- 2018年 DIインドデジタル投資組合を組成
- 2021年 (株)電通グループと資本業務提携
Next Rise ソーシャル・インパクト・ファンド投資事業有限責任組合を組成
- 2022年 東証プライムに移行
- 2023年 ビジネスプロデュース事業への資源集中を目的として、アイペットホールディングス、他子会社2社の全株式を譲渡

DIの付加価値：“ビジネスプロデュース”（事業創造支援）

支援メニュー

支援内容

産業プロデュース

- 社会課題をビジネスで解決するために、産業そのものの在り方から事業創造の可能性を検討するご支援
- 業界を超え、ルールも変える発想で、新しい構想を政府等とも議論しながら設計

ビジネスプロデュース

- 顧客企業の技術やリソース、強みをレバレッジした事業戦略構築のご支援
- ビジネスモデル設計を中心にして、仲間づくりや政策連携も交えながら大きな事業に打ち作る

ビジネスプロデュース・インストレーション

- 戦略の策定に留まらず、その先の実行や成果の具現化まで踏み込んで、顧客企業の事業創造をご支援
- 更には、事業創造にかかる経営課題（組織体制、人材、インフラ等）解決まで対応

Technology & Amplify

- 顧客企業における事業価値をテクノロジーで増幅（“アンプリファイ”）するために、戦略～構想～実装まで一気通貫でご支援
- デジタルアーキテクチャーと事業戦略を統合した構想策定から支援

グローバルSX*

- アジアを主戦場に、日本企業のグローバルなビジネスプロデュースをご支援
- JICAと協働で、主に途上国における新たな官民連携・社会インパクト創出の仕組みを策定し、実行支援

役員紹介

代表取締役社長 三宅 孝之



- 経済産業省にて、ベンチャー制度設計、国際エネルギー政策の他、幅広い政策立案の省内統括、法令策定を経験したのちコンサルティング業界へ
- 感銘を受けたDIの創業理念（ソニーやホンダを100社つくる）の実現のため、社会的課題から大きな事業創造を生み出すコンセプトである「産業プロデュース」及び「ビジネスプロデュース」を確立
- 「3000億円の事業を生み出すビジネスプロデュース戦略」「3000億円の事業を生み出す『ビジネスプロデュース』成功への道」（PHP研究所/共著）、「産業プロデュースで未来を創る—新ビジネスを次々と生み出す思考法」（日経BP社/共著）、「『共感』×『深掘り』が最強のビジネススキルである」（PHP研究所）を執筆

取締役副社長 細野 恭平



- 国際協力銀行にて、旧ソ連諸国向けのODA、途上国の債務問題、ODA改革などを経験
- 戦略コンサルティングとインキュベーションの両方に挑戦できるという事業モデルにやりがいを感じて、DIに参画
- DIにおいては、グローバルビジネスとインキュベーションを主に担当。ベトナム駐在時代には、大企業のグローバル展開の支援、ベトナム企業向けの投資などを推進、投資先のベトナム上場企業の再生を主導する修羅場も経験。現在は、途上国の社会課題解決に挑戦する日本企業を支援するグローバル・ビジネスプロデュースを推進すると共に、コーポレート担当として、人事・財務・経理・IRなどを所管

取締役 取締役会議長 原田 哲郎



- 海上自衛隊で艦艇のソナー要員
江田島で訓練を受けるなか、戦争がもたらした広島市の荒廃の歴史と、そこから立ち直った広島市の街を目にする。その復興の原動力である「産業の発展」に寄与したいとの思いに至り、民間に転向
- 日本生命で財務企画、融資営業企画、人事企画に従事
- 「新事業・新産業の育成」を目的としてDIが設立される事を知り、創業直後に参画。IT、通信、製造、総合商社、卸、小売、建設等、様々な大企業に対する戦略コンサルティングや経営幹部育成、ベンチャー投資育成に従事。CEOとして構造改革を推進した後、議長として継続成長に向けたサクセッションを支援

コーポレートミッション

Mission : **社会を変える 事業を創る。**

Vision : **挑戦者が一番会いたい人になる。**

Value : **枠を超える。**

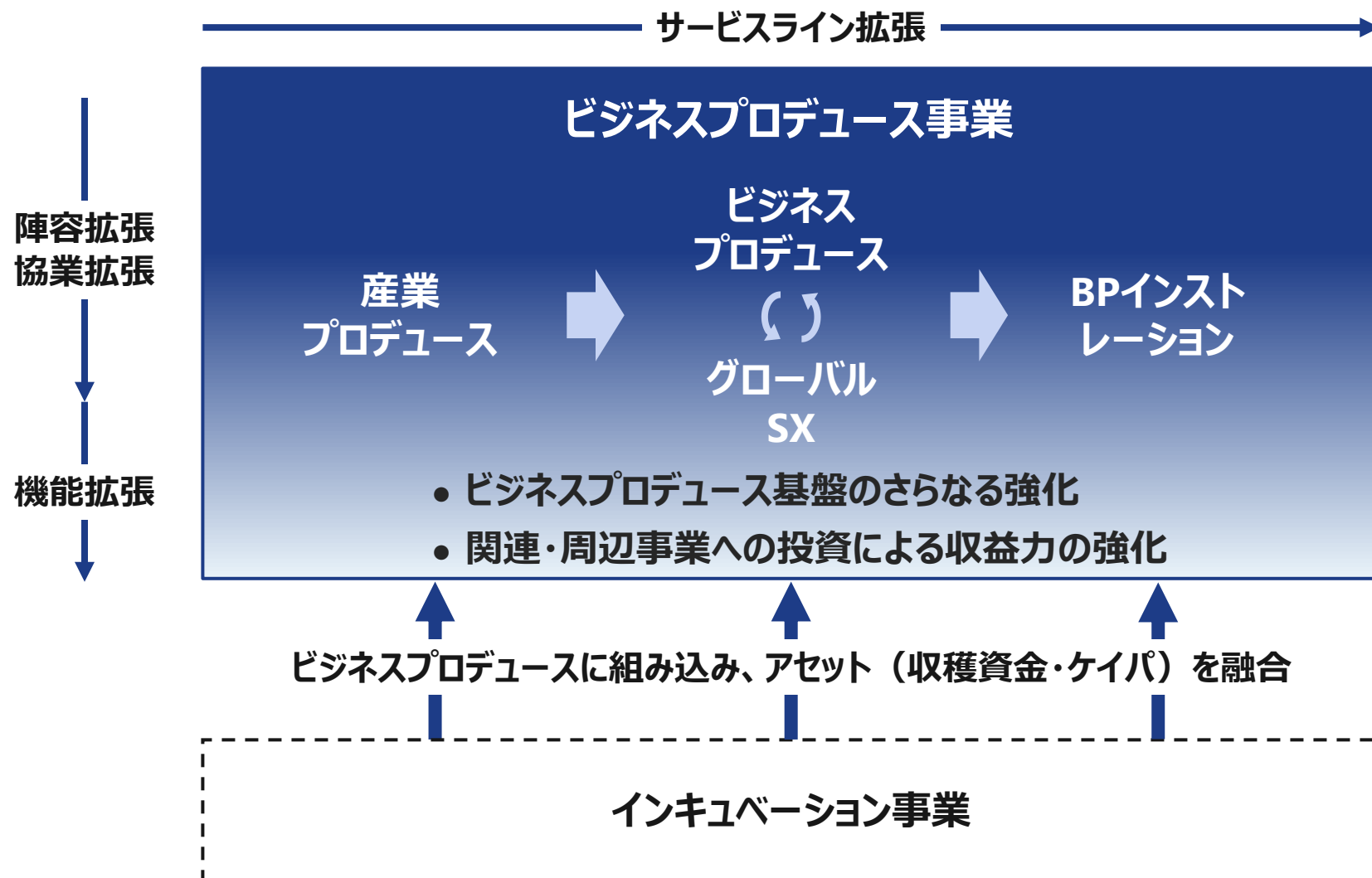
- 領域の **枠を超えて** 構想する。
- 常識の **枠を超えて** 戦略を立てる。
- 組織の **枠を超えて** 仲間を集める。
- 自分の **枠を超えて** 挑戦する。



- 1. 2024年3月期 第1四半期決算**
- 2. 参考資料**
 - 1) 会社概要**
 - 2) 現中期経営計画要旨**

目指す方向性

インキュベーションのアセットを組み込み、4つの拡張でビジネスプロデュースを更に強化



企業価値向上への成長投資と株主還元をバランス

NAV経営からPL経営への移行に伴い、株主還元を再開

成長投資（機能拡張）：利益向上

規律（費用対効果）ある投資



株主還元：EPS・PER向上

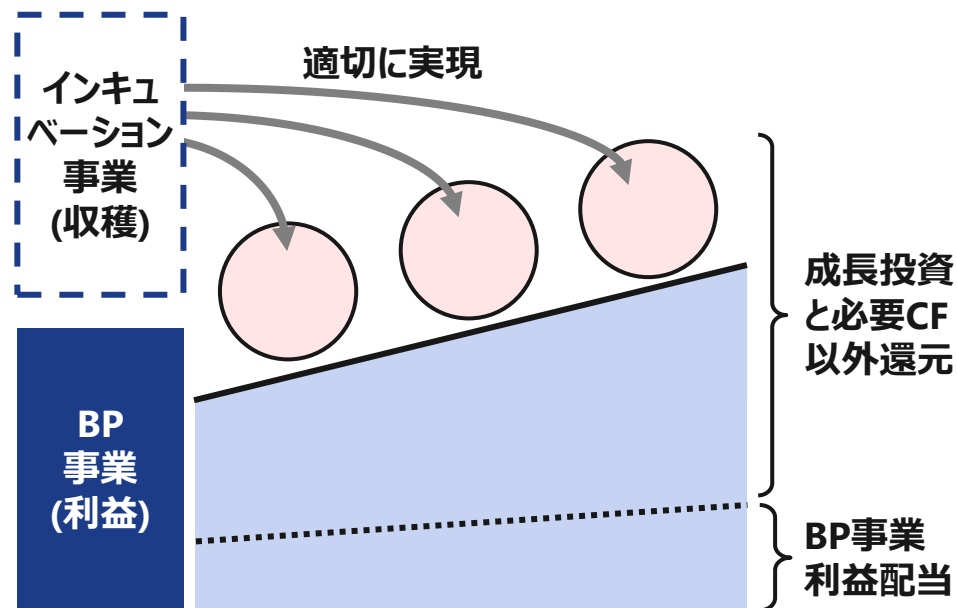
安定成長PL利益と収穫資金から

① ビジネスプロデュース基盤のさらなる強化

- 採用・人材育成投資
- 生産性向上に向けたインフラ投資

② ビジネスプロデュース関連・周辺事業への事業投資による収益力の強化

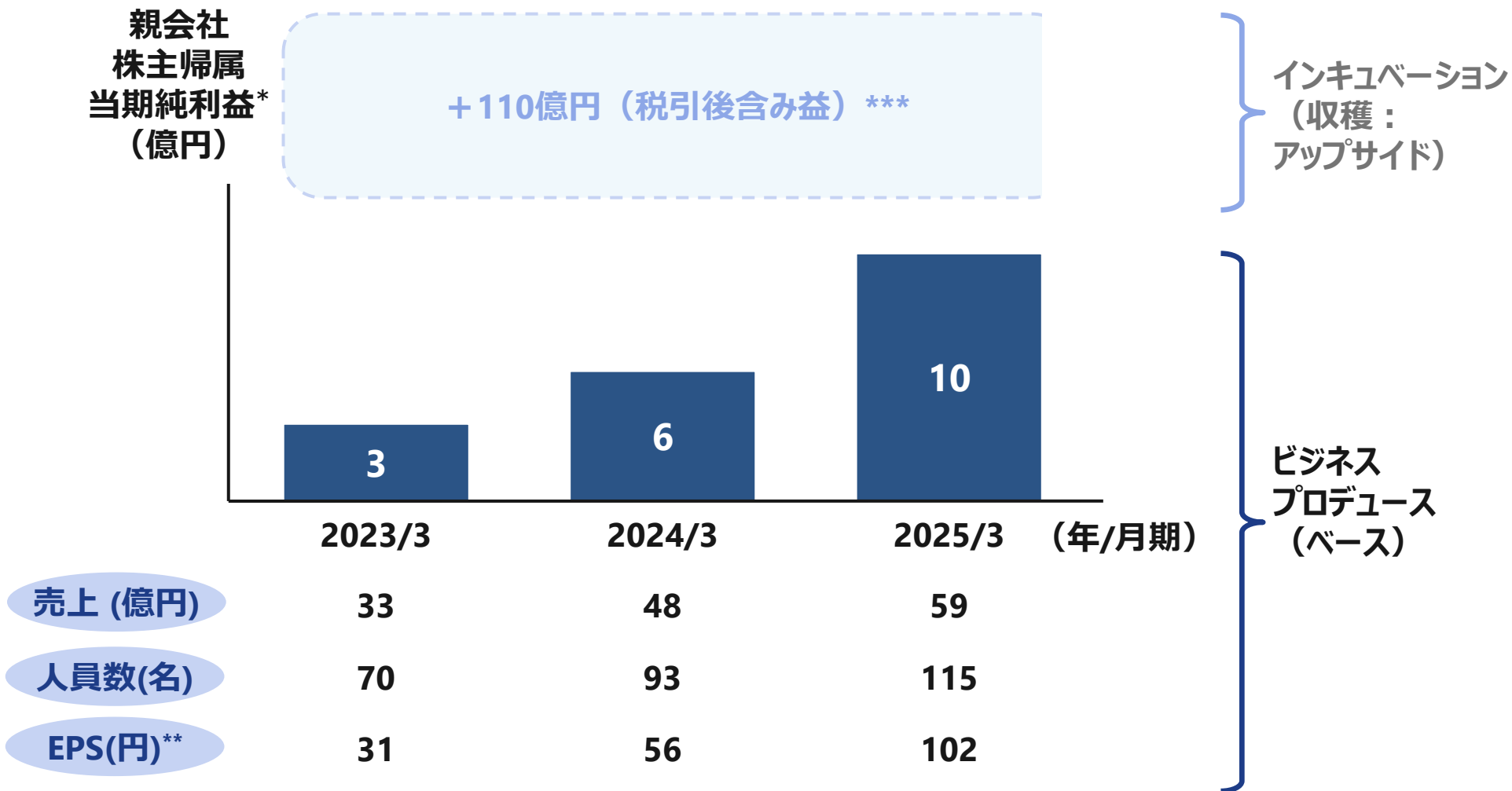
- ケイパ増強・収益機会拡大等への投資
- 期待ROIC* > 12%



* 税引後利益 ÷ 投下資本

中期利益計画（2023年3月期～2025年3月期）

ビジネスプロデュース当期純利益 + インキュベーション収穫からの上乗せ可能性



* 簡便的に非支配株主持分損益調整後の利益に税率30%分を控除

** 2022年3月末時点の発行済株式数を前提とした試算

*** 2022年3月末時点

免責事項

本資料内に記載された将来の見通しや戦略等は、作成時点において入手可能な情報に基づくものであり、目標や予想の達成及び将来の業績を保証するものではありません。将来の業績は、経営環境の変化、投資先企業の業績の悪化、金融商品市場における株価の変動等の要因により実際とは大きく異なる可能性があります。

また、本資料の内容は将来予告なく変更されることがあります。本資料のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合し、利用者の判断によって行って頂きますようお願い致します。本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

Dream Incubator Inc.

The Business Producing Company